

氏名	杉本 圭以子
学位の種類	博士(看護学)
学位記番号	第 10 号
学位授与年月日	平成 27 年 3 月 18 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当者 看護学研究科看護学専攻
学位論文名	救急医療機関の看護師による自殺未遂者の再企図リスクアセスメントに関する研究－再企図防止のケアに向けた組織としての準備に着目して－ Risk assessment of a suicide re-attempt by nurses working in the emergency room: systematic preparation for prevention
指導教員	影山隆之教授 伊東朋子准教授 関根剛准教授
論文審査委員	主査：石田佳代子准教授 副主査：小野美喜教授 吉村匡平准教授

論文内容の要旨

【目的】救急看護師には自殺未遂者への身体的ケア以外に、再企図防止のためのケアが求められているが、実際には回避的な関わりをしていることも多い。このケアを普及するには看護師個人の態度変容をめざした教育が重要とされてきたが、それだけでなく組織的な準備も必要である。そこで、救急看護師が自殺未遂者へ再企図防止のためのケアを行うために、組織として行うべき準備はどのようなものかを明らかにすることを目的とした。

【研究 1】救急看護師に求められる自殺未遂者への再企図防止のためのケアについてシステマティックレビューを行い、国内外の論文 25 篇の文献研究を行った。このケアは、再企図のリスク及び心理社会的ニーズのアセスメント、安全の提供、退院時の支援構築の 3 つに大別された。ケア実施の障害となる要因は、看護師個人の認識や態度、未遂者側の拒否や攻撃的態度、救急の物理的・環境的要因であった。ケア実施につながる要因は、教育やアセスメントツールの活用であった。

【研究 2】一地域の救急医療機関と精神科医療機関を受診した自殺企図者の実態を調査し、再企図リスクアセスメントの項目である「死ぬ意図」を確認した割合を確かめ、再企図リスクアセスメントを受けにくい未遂者の特徴を検討した。救急病院では、死ぬ意図を確認していない症例が半数近くあり、その特徴は①10～30 代②夜間搬送③致死性の低い手段④入院せず帰宅であった。救急病院では死ぬ意図及び未遂歴の確認は精神科病院と比較して実施率が低く、系統的な再企図リスクアセスメントが行われていないことが示された。

【研究 3】救急医療機関の自殺未遂者に対する実際のケアと再企図アセスメントツールとの関連について看護師に質問紙調査を行い検討した。回答した 399 名中アセスメントツールを使用しているのは 17 名(4%)であった。未遂者ケアの経験が少なくてもアセスメントツールを使用することで、リスクアセスメントを実施できている傾向にあった。ただし、アセスメントツールの準備だけでなく、ツールを使用するためのしくみを組織的に整えることも必要だと考えられた。

【研究 4】再企図リスクアセスメントツールを使用している病院としていない病院の間で、再企図リスクアセスメントを実施する環境やしくみの違いと、看護師の再企図リスクアセスメントに対する認識の違いを探索することを目的に、救急部門の看護師に面接調査をおこなった。アセスメントツールを使用している病院では、ツール使用をルーチン化し、全ての看護師がリスクアセスメントできるしくみがつくられ、ツールを使い続けるための教育、振り返り、環境の構造化が行われていた。アセスメントツールがない病院の看護師は、自殺未遂者へのケアに負担感を感じていたが、使用している看護師は「自殺についてたずねることは当たり前」という認識であった。

【結論】救急看護師が自殺未遂者に再企図リスクアセスメントをするためには、アセスメントツールを準備し、実際に使用できるようなしくみをつくり、継続して使用できるよう組織として運用していくことが有効であると考えられた。

Abstract

Objectives: Although emergency nurses need to provide suicide attempters the care to prevent their re-attempt, the nurses tend to avoid the suicide attempters. Not only personal education about the care, systematic readiness in their institutes is important. The aim of this study was to clarify the feature of systematic readiness for providing the care.

Study 1: Through the systematic review for 25 literatures about the care provided by emergency nurses for suicide attempters to prevent re-attempt. The care was categorized into assessment of suicidal risk and psychosocial needs, keeping safe, and building support at the time of discharge. The care is sometimes disturbed by their negative attitude toward patients, rejection and offensive attitude of the patients, and environment of emergency rooms. Education and assessment tools, however, promote the care.

Study2: The author examined the records of suicide attempters who were admitted to emergency hospital or psychiatric hospital in an area, in order to know how many patients were asked the "die intention", and to know the features of the patients who were not asked the intention. The features were being aged 10-39, visits at nighttime, less-lethal means, and going home without hospitalization. The intention was not confirmed particularly in emergency hospitals, compared with psychiatric hospitals, showing that systematic risk assessment is not carried out in emergency hospitals.

Study3: Questionnaire survey was carried out to know the actual care and use of assessment tools for re-attempt among emergency nurses. Among 399 respondents, only 17 (4%) used the assessment tools. It was suggested, however, that the tools can help the nurse with no experience to give care for suicidal attempters to assess the risk of re-attempt. Institutional effort to utilize the tool seems to be important.

Study4: To compare the environment and the system to assess risk of suicidal re-attempt in the hospitals where the risk assessment is popular and those in the hospitals where it is not popular, an interview survey was carried out to emergency nurses. In the former hospitals, it was a routine work to assess suicidal risk using tools, and all the nurses can assess the risk. For this purpose, education about using the tool, the discussion about patients, and structuring environment have been carried out. Even if assessment tool was not prepared in the former hospitals, the nurses recognized that asking suicidal risk is their work, in spite of burden to give care for suicidal attempters.

Conclusions: Making an institutional effort to prepare assessment tools for suicidal risk and to make the environment enabling continuous use of the tools is required for emergency nurses to assess suicidal risk in attempted suicide.

論文審査の結果の要旨

本論文は、救急医療機関の看護師が、自殺未遂者の再企図防止を目的としたケアを行うために、看護師個人への教育だけでなく組織として行うケアの準備に着目して、3つの基礎的検討を行った成果をまとめたものである。第一の研究では文献研究を行い、「再企図リスク及び心理社会的ニーズのアセスメント」、「安全の提供」、「退院後の連携」が、再企図防止のケアにつながる要因であることを明らかにした。第二の研究では質問紙調査を行い、再企図リスクアセスメントに焦点を絞り、それを受けにくい未遂者の特徴を示すとともに、系統的なアセスメントのためのしくみを整える必要性を明らかにした。第三の研究では面接調査を行い、再企図リスクアセスメントと組織的準備の関連を検討し、アセスメントツールの使用が再企図リスクアセスメントにつながることを明らかにした。未遂者支援は、自殺対策において極めて重要な課題であり、本論文は、再企図防止のケアに向けた組織的なくみづくりを推進するうえで有益な知見を提供している。今後、再企図防止のためのケアの確実な実施と、それによる未遂者の再企図防止への貢献が期待され、看護学の学位論文としてふさわしいものと判断した。